

バイオマス火力発電から地域の環境と健康をまもるために

みどりの里の環境をまもる会 鶴巻俊樹（新潟県三条市）

<環境課が火力発電を誘致する？>

工業団地にバイオマス発電建設と公表されたのが2年前。年間6万トンの焼却炉だから、どうして環境課が迷惑施設を誘致するのかと、反対決議や学習会（講師：関口鉄夫さん）のチラシ配布を積み重ねてきました。

国との太いパイプを持つという市長が主導し、広報誌では林業振興、雇用拡大、里山再生と耳障りの良い言葉が宣伝されました。里山の恵みを生かす、新しい地域文化を創造する、などと語られ、カーボンニュートラル、エネルギー循環など、まるで原子力が未来の夢のエネルギーと宣伝された時代に逆戻りしたようです。あの時代の「まやかし」が姿を変え再来したかのようでした。

<震災がれきの広域処理と同じ本質>

この市長は5年前、環境省が全国に拡大した震災がれきの広域処理でも県内の市長会を主導し、率先

して受入れを強行した人物です。当時の議会では「震災地の復興を支える絆」と演説する推進派と、「目に見えない放射能から市民の健康をどうまもる」という反対派の議論となりました。

この担当も環境課でしたから、空間線量計を持ち出してデモンストレーションをしたり、「正しく放射能と向き合うため」と市主催で公民館の放射能学習会が開催されたりしました。県内でも各地で反対運動や訴訟となりましたが、「試験焼却」の段階で終息して現地処理となりました。

煮ても焼いても無くならないセシウムを広域に拡散し、空間線量を調整、放射能被害などまるでなかったかのようにしなければならない。2020年オリパラまでの期限付きだから、そのための資金もつぎ込む。地方の犠牲も目をつぶる。

放射能政策の根幹ですから、各地で進行している事態を見ていくための中心視점에据えなければなりません。



市内から見たバグフィルター設備
背景に田んぼと嵐山が見える



情報交換、交流会の様子

<リネン吸着法で監視体制を>

さまざまな取り組みを重ねたものの、建設を食い止めるまでに至らなかった中で、フクロウの会のレポートから一関市寺前崎地区の皆さんの調査を目にしました。仲間と協議し、周辺環境調査のためにちくりん舎に連絡したところ、青木さん、中西さん、浜田さんに現地調査へ来てもらえることとなり、9月には交流会をおこなうことができました。

発電所は9月から稼働を開始していますので、私は内部見学に3回参加しています。これに合わせて、まず、周辺8カ所にリネンを設置し、この分析と土壌分析を終えました。結果はいずれも検出せず。稼働前の基礎調査ですから当然ですが、今後の運転状態を監視しながら定期定点継続の監視体制を整えることができました。

燃料は「周辺50キロ圏の間伐材など」とされています。今のところ近隣の杉丸太を山積みしていますが、だんだん遠くなる産地からの集材が滞るようになったその先が問題と考えています。

したがって、やや長期に監視測定し、交渉していくための体制を整えていくことになります。私も関

わった隣町の巻原発は設置撤回まで35年の曲折を経ている経過なのであります。

<バイオマス発電全国ネットワークへ>

私たちは3月に隣接の群馬県前橋市へバスを仕立て赤城山の自然と環境をまもる会の皆さんと日帰り交流会をおこないましたが、その時に痛感したのが全国ネットワークの必要性でした。各地でそれぞれが精一杯の取り組みを展開しているけれど、相手は形を変えた「原子カムラ」なのだということです。したがって、どうしても全国の取り組みをつなげて力にしてくためのネットワーク、とりわけ福島周辺の東日本ネットが必要だと考えています。そのための節目として、ちくりん舎の皆さんに大きな思い込めて越後の地からの寄稿とさせていただきました。

三條市木質バイオマス発電

三條市木質バイオマス発電所

- グリーン発電三條
- 三條市下保内
- 三條市興野3丁目
- 南蒲原郡田上町川船河丙
- 三條市白山新田
- 三條市井栗3丁目
- 三條市北入蔵2丁目
- 加茂市下条甲
- 加茂市千刈

